

ICTで 授業 をDX!

学年 小学校1年 教科 国語 など

ロイロノートよさを感じて、楽しく学習しよう!

使用するアプリケーション等
ロイロノート

単元・題材 ものの名まえ

本時の目標 意味による語句のまとまりや上位語・下位語の関係を理解することができる。(知識及び技能)

ICTを活用することで できること

- ・前時の学習を振り返る際に、デジタル教科書に加えて、今までに使用したデジタルデータを活用することで、学習内容をより思い出しやすい、よりよい授業に繋がる。
- ・ロイロノートを使うことで、カードを動かしたりしながら、簡単に、視覚的にも分かりやすく、思考することができる。また、たくさんの友達の考えに触れたり、考えるためのヒントをもらったりするなど、思考に活用する情報を増やすことができる。
- ・振り返りの手段を、ノート(紙)にするのか端末を使うのか、端末の場合は自分で打ち込んで文字を残すのか、ノートの写真を撮るのかなど、表現方法を選択できるようになった。そうすることで、教師にとっても、児童にとっても、振り返りの効果が高まる。

DX前 (ICTを使っていなかった頃は・・・)

1 導入

- ①教科書や前時までのノートを見て、単元のため「ものの名まえをあつめて、おみせやさんごっこをしよう。」やものの名まえは、上位語と下位語に分けられることを思い出す。

2 展開

課題
1つ1つの名まえと、まとめてつけた名まえをわけよう。

- ①身の回りにはいろいろなものの名前を集め、上位語と下位語に分ける。
 - ワークシートに自分で考えた上位語と下位語を書く。
- ②2人1組で「ものの名まえクイズ」をする。
 - 下位語だけを伝えて、友達に上位語を答えてもらう。
 - 上位語だけを伝えて、友達に下位語を答えてもらう。



3 まとめ

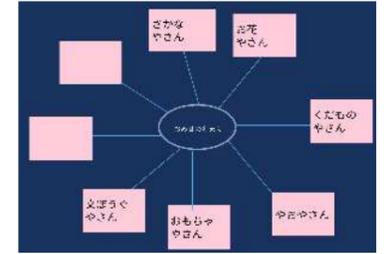
- ①本時の学習をまとめ、お店屋さんの種類を決める。
 - お店屋さんでは、上位語が店名に、下位語が品物になることを確かめる。
 - 児童の希望を聞きながら、お店ごとにグループを作る。
- ②振り返りを行う。
 - ノートに振り返りを書く。



DX!

DX後 (赤字はICT活用場面)

- ①前時までの学習を、デジタル教科書やロイロノートを使いながら思い出す。
 - 前時に使用したロイロノートの「お店の名前集め」の画像を見せ、ウェビングマップを使って考えたことを思い出す。



↑前時に利用したロイロノートのカードを活用し確認することで、学習内容を思い出しやすい。

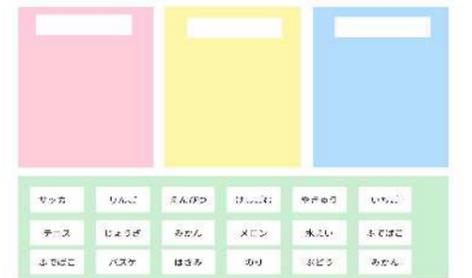
2 展開

課題
1つ1つの名まえと、まとめてつけた名まえをわけよう。

- ①ロイロノートで(1)のカードを使用し、上位語(魚・果物)と下位語に分ける。
 - ロイロノートで(1)のカードを配布する。
 - カードを動かしながら、自分で考える。
 - 迷っている児童には教師が声かけをし、個別の支援を行う。
- ②全体で考えを共有する。
 - 発表する児童のカードを教師用端末に送る。
 - 発表は、大型テレビに児童が送ったカードを提示して行う。
 - 友達の発表を聞くときは、端末は触らずに、聞くことに集中させる。
- ③上位語と下位語に慣れるため、練習問題に取り組む。
 - 考えている途中に、提出箱に提出した児童の考えを見てもよいことを伝える。
 - 練習問題が早く終わった児童は、提出箱に提出し、自分の考えと提出している友達の考えを見比べてよいことを伝える。



↑(1)のカード



↑(2)のカード

3 まとめ

- ①本時の学習をまとめ、やりたいお店を考える。
 - お店屋さんでは、上位語が店名に、下位語が品物になることを確かめる。
 - ロイロノートでやりたいお店を入力する。
- ②振り返りを行う。
 - ロイロノートを使って、振り返りをし、「やりたいお店」と「振り返り」を提出箱に提出する。



→やりたいお店を打ち込むカード

授業者から (成果・課題・留意点)

- ・ノートやプリントを使用するよりも、楽しく、主体的に学習していた。
- ・表現にかかる時間が短縮されて、児童の「思考する時間」が増えた。
- ・ロイロノートを使うことで、低学年の児童でも、効果的な交流活動ができた。
- ・学力差があるため、指導者用端末で一人一人の学習状況を確認しながら、個別の支援や声かけを行うようにするとよい。